

編 集 後 記

2011 年 4 号からエッセー担当になりました紺屋恵子です。いま編集後記を書いています。が、これまで編集にはあまり貢献できていません。というのも、エッセーは近年の投稿数が少ない状況にあるからです。かく言う私も、担当になる前はエッセーというコーナーをあまり認識していませんでした。エッセーは、雪氷の中ではおそらく、こぼれ話・談話室に近いと思います。違いは、エッセーは学術的な枠外の話も受け入れる場であるということのようです。そうすると、ちょっと耳にした話や噂で聞いた話など、ネタはたくさんあるような気がします。もし面白そうな話があれば、自薦・他薦を問わずぜひ教えてください。

雪氷学でエッセーと言えば、中谷宇吉郎です。中谷先生の「雪は天からの手紙」で、雪の科学が世に広まったと言えるのではないのでしょうか。さらにその師匠の寺田寅彦の「柿の種」もいろいろなテーマがあって楽しい本だと思います。その中に、2 本目の電車に乗るという話があります。時間通りに運行するようになった現代でも、ダイヤが崩れたときには当てはまる法則(?)ではないのでしょうか。

さて今号は、ありがたいことに、エッセーへの投稿が 2 件もありました。うち 1 件はこれから 2 回の連載、もう 1 件は 3 回の連載になりそうです。まだまだ隠れている話もあるでしょうから、これからどんなお話がでてくるか楽しみにしたいと思います。

(紺屋恵子)